



KOBEKODOMO
NIKONIKOKAI
NEWS

復刊 第 9 号 2013 年冬季号

こうべ子どもにこここ会ニュース

巻頭言

宿院 齊 さん（本庄中学校長）

子どもたちを支える地域ネットワークを

本庄中学校は昭和 22 年の創立以来、今年で 66 年目を迎える歴史と伝統ある地域の学校です。これまでに 2 万名を越える卒業生を送り出し、親子 3 代に亘って本校で学ばれたご家庭も少なくありません。

一方、東灘区は神戸市内でも中央区、長田区に次いで外国籍居住者が多く、特にブラジル・ペルーなど、南米の国々から来日された人々が年々増えつつあります。本庄中学校でも、これらの国々から来日した生徒はこれまでも在籍していましたが、その人数は年々増える傾向にあります。

現在、本庄中学校に在籍している生徒のほとんどは小学校時代に来日していて、日本での生活にも随分と慣れ、クラスや学校の仲間と共に楽しく学校生活を送っています。それでも、日本語を学んで日が浅い彼ら、彼女らが社会科や理科・国語などの授業内容を十分に理解することは簡単なことではありません。日本語特有の言い回しや、その教科独自の用語は日常会話ではふれることのないものですし、歴史や文化にまつわる事柄の中には、日本人にとっては当たり前でも、彼らにとっては目にしたことも聞いたこともないというものがその大半です。そんな彼らが日本の中学校で学ぶことは、日本人の子どもたちの中 1 ギャップ以上に大変なことであるのは間違いないことでしょう。

そこで一昨年度から、地域で彼らに日本語指導や教科学習支援を行ってくださっているこうべ子どもにこここ会の皆さんに協力をお願いして、こう

した子どもたちを支えるための体制づくりに取り組み始めました。地域の小学校と合同の研修会では、にこここ会の活動について知り、学力の向上に不可欠な学習言語の重要性やそれを身に付けさせるための授業の進め方などについて話し合うなど、子どもを中心とした研究の場をもつことができました。また、昨年度からは学校とにこここ会の皆さんが同じ目線で子どもたちに向き合えるよう、子どもたちの学校・地域での生活や学習について、定期的に情報交換の場をもつことにしました。

また、地域で共に育つ子どもたちのふれあいと相互理解を目的に開催される「多文化フェスティバル・深江（以前の“深江多文化こどもまつり”）」にも、本校のボランティア組織 HEP（Honjyo Earth Project）の生徒が中心となって参加させていただいています。生徒同士はもちろん、大学生や地域の大人の皆さんとの協働を通じて地域の一員としての自分を自覚し、様々な人々が暮らすこの地域の豊かな文化に目を向けることのできる貴重な体験の機会となっています。

本庄中学校の、こうした取組はまだ始まったばかりですが、子どもたちを支える地域ネットワークの一員として、これからも、その責任をしっかりと果たしていかなばならないと考えています。にこここ会のみなさんをはじめ、校区の幼稚園・小学校、そして地域の皆様にもご理解とご協力をいただきながら、連携の輪が広がるように願っています。

本庄・東灘小学校内日本語教室が始まりました!!

深江地区には2つの小学校があります。その2つの小学校で、外国につながる子どもたちのための校内日本語教室が実施されています。

本庄小学校では昨年度(2012年度)から、東灘小学校では今年度(2013年度)から、神戸市教育委員会の日本語指導支援者派遣調査事業の一環として、開催されるようになりました。



子どもたちにとって、一日の大半を過ごす学校はとても大切な場です。学校の中に、自分の力を伸ばせる学習環境、友達との良い関係、といった自分の居場所があることが大切です。そして、その学校が、家庭や地域といった子どもたちの生活空間とつながったとき、子どもたちの生活は全体として輝きを増し、自分らしく、誇りを持って生き生きと過ごせる毎日となると思います。

そのために「こうべ子どもにこにこ会」では、これまでも放課後日本語・教科支援教室やスペイン語母語教室、学校・地域の諸団体との連携や行事の実施など多面的な支援を通して、子どもたちの地域での居場所づくりやこころのケアにも力を注いできました。一人ひとりの子どもを中心として地域全体で子どもたちを支える環境づくりを目指す中で、学校と校内日本語教室と放課後日本語・教科支援教室の三角形の連携をその核とすべく、にこにこ会は校内日本語教室の開催にあたって、指導経験の豊富なプロの日本語教師に子どもたちの指導を依頼し、学校と連携して教室のコーディネートをしています。学校の先生方や放課後教室の皆さんと協力しながら、子どもたちが在籍学級で自らの能力を最大限に発揮して積極的に授業に参加することができるような力を、そして同時に、子どもたちが自ら学びとり、社会で生きていく力の基礎を育んでいきたいと考えています。

幸いにも、定期的な校内日本語教室の実施を通して、学校での子どもたちの学習や生活の様子を学校の先生方やサポーターさんとリアルタイムに情報交換し合い、また放課後教室の支援者の皆さんとも情報共有し合って、学習の連続性を確保することで、三者が三角形につながり、学習面のみならず、家庭をも含めた子どもたちの生活空間が少しずつひとつにつながり始めているようです。

今回は、両小学校の校内日本語教室の様子を、コーディネーターの辻村さんにご報告いただきます。



校内日本語教室報告 :

週1回の日本語教室にやってくる子どもたちの表情はさまざま。「せんせ〜!」と元気よくはちきれんばかりの笑顔で飛び込んできたり、ちょっと照れたような表情でしずしずと入ってきたり、高学年にもなると「今日も来てあげたわよ〜」風だったり。

クラスという集団から離れて一人特別な場所に行くという感覚がどういうものなのか、迎える講師には測り知れないものですが、開始当初には「特別な場所」だった日本語教室が、回数を重ねていくにつれ「自分たちの場所」となっているように思います。

日本語教室では日本語初期指導や教科学習指導として、漢字や語彙の定着、日本の文化や習慣に触れること、考える力、説明する力、読む、書く力を伸ばすことなどを目標とした指導を行っています。基本はマンツーマン授業。子どもと教師、膝を突き合わせて行う授業は時として勉強を超え、子どもが心の内側を見せてくれる場面もあります。

指導内容に関してはまだまだ模索中の部分もありますが、クラス担任の先生と情報交換をしたりクラス授業を参観させていただいたりしながら子どもたちの様子を知り、日本語教師としての技を総動員して、授業に臨んでいます。

また、放課後日本語・教科支援教室、校内日本語教室の両者がそれぞれの特性を生かした指導ができるよう、授業の引き継ぎやお互いの教室見学を通して連携を深めているところです。

学校、放課後日本語・教科支援教室という子どもたちを囲む輪に加わって思うのは、学校の先生方、にこにこ会スタッフ、放課後日本語・教科支援教室の皆さんの熱意やこれまでのご尽力の大きさです。それらに敬意を表しながら、私たち校内日本語教室の講師一同も頑張っていく所存です。

「できた!わかった!」という笑顔が増え、学ぶ喜びを味わってもらえるように。

辻村文子さん
(本庄・東灘小学校内日本語教室コーディネーター)

子 ど も の 声

放課後教室に参加して

正直、最初はにこにこ会に来るのがイヤだった。でも、行ってみたら、楽しかったのもっと早くに行けばよかったと思った。

友達たくさん作ったり、ケンカもしたり、勉強したり、先生や友達と接したり色々いい思い出になることばかり。

勉強や友達と絆を深めたりするために色々なイベントがあってすごく幸せです!! 私はにこにこ会に入って良かったと思う。にこにこ会最高〜!?

AO



🎨 多文化フェスティバル・深江 🎨

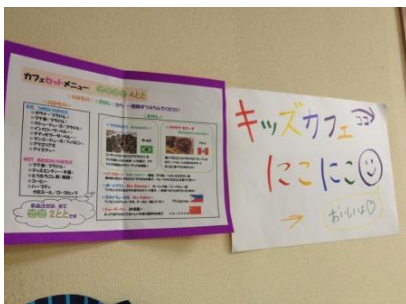


10月13日(日)に、多文化フェスティバル・深江が、深江駅前の大日神社にて開催されました。

おまつりの中でにこにこ会は、昨年に続き『にこにこキッズカフェ』を開き、子どもたちにカフェ店員さんになってもらいました。お客さんとの交流を通じて、自分たちのような存在を知ってもらい、発信できる場となるよう、また、子どもたちにとって職業体験のような機会になって欲しいと考えて実施しました。子どもたちは、お客さんに注文を取ったり、商品を運んだり、商品を準備したり、与えられた役割をそれぞれにしっかりとこなしてくれました。いきいきとがんばって店員さんをしてくれる姿は大変頼もしいものでした。また、放課後教室のボランティアさんも多く参加して下さい、普段の教室活動以外の場で子どもたちと関わることで、一人一人の新たな一面を発見して下さいと思います。

今回のキッズカフェ開催を通して、どれだけの方ににこにこ会を新たに知っていただくことができたか、はっきりとは分かりませんが、少しでも新たな広がりを生み出すことができていたら幸いです。

また、今回参加した子どもたちの中からは、次は自分の国のお勧めデザートを出して欲しいという声がありました。企画段階から子どもたちや保護者を巻き込んで進めていくことは容易ではないのですが、次回キッズカフェをオープンするときは、できる限り子どもたちや保護者を巻き込んで開催することができれば、さらに実りの多い活動になるのではないかと思います。





レポート(2) 松下朋子さん (放課後日本語教科支援教室コーディネーター)

放課後日本語・教科支援教室

放課後日本語・教科支援教室では子どもの学習ニーズやレベルに合わせ、日本語または教科の支援をマンツーマン体制で行っています。原則として日本語でサポートを行い、学習前は読書、読み聞かせにも取り組んでいます。

昨年度からは徐々に校内日本語教室、地域小中学校との連携を図ることが出来るようになり、子どもたちにとってより良い支援が出来るようになってきています。現在の参加児童生徒数は28名。ボランティアは37名です。活動スケジュールは下記のとおりです。

場所：本庄地域福祉センター

日時：毎週木 16:00～17:30 (小学生)

17:30～19:00 (中学生)

毎週土 16:00～18:00 (小中学生)



○今年度のその他の活動

- ・本庄児童館との交流：7月6日—七夕まつり。

恒例となった児童館との交流、日本の子どもたちと一緒に、短冊へ願い事を書いたり笹に飾りをつけたりと、楽しく日本の文化を体験しました。

参加数：児童生徒= 34名、ボランティア= 26名



- ・キッザニア甲子園招待イベント：6月11日、10月22日



子どもたちに大人気のキッザニア甲子園に無料招待！多種多様なお仕事体験やいろいろなイベントに参加して、子どもたちも大張り切り、楽しい夕べとなりました。

参加数：児童生徒=29名、保護者=18名、
ボランティア=5名

- ・夏休み宿題教室 : 8月1日、2日、5日、6日、8日



支援は初めて！という大学生にも、事前に研修の機会を設け、たくさんお手伝いをいただきました。

自由研究や読書感想文など、自力で行うことが難しい宿題を中心に、年齢の近い大学生のお兄さんお姉さんに、優しく楽しく、教えてもらいました。

参加数：児童生徒=延べ100名、ボランティア=5名、
学生=18名

・にこにこオープンキャンパス@関西学院大学～イメージしよう！将来の自分～：8月7日

関西学院大学社会学部の大岡ゼミの全面協力の下、将来の夢を描きにくい子どもたちに、



自らの進路へのイメージを持ってもらおうと昨年度から実施しています。大学生のお兄さん、お姉さんの案内で大学内を探検。学食でのランチを体験したり、図書館を見学したり、留学生に話を聞かせてもらったりと、盛り沢山な一日を楽しみました。



参加数：児童生徒=13名（小学校4年生～中学2年生）

関西学院大学学生=延べ25名

普段の日本語・教科学習に加え、オープンキャンパスでの体験学習や、夏休みの自由研究、キッザニアでの体験などから、どのような勉強をしたら将来夢を叶えることができるのか、考えるきっかけになることを願っています。

スペイン語母語支援教室

スペイン語母語教室では、今年度よりクリサキ・ロサ先生が講師として活躍してくださっています。

クリサキ・ロサ先生は、昨年度はコーディネーターとして講師の伊藤美紀先生と共に教室を開催してくださっていましたが、伊藤先生が抜けられた今年度からは、講師として子どもたちとがっぷり四つに組んで、スペイン語による学習支援に取り組んでくださっています。教室での学習内容は次のようなものです。

- スペイン語での教科学習支援・読み聞かせ
- レベル別に基本的な言葉の読み書きの練習
- 子どもたちの出身国についての文化、習慣等の勉強
- ゲームをしながら数字や言葉の学習
- スペイン語圏の年中行事（母の日等）の実施



このように、アクティビティなども取り入れて母語を使い、習得しながら学習を進めることで、自分のルーツを否定することなく、好きになれる教室であってほしいと願っています。また、「生きた」



ことばの学びを積極的に取り入れ、家庭でのコミュニケーションの機会が増えるように努めています。

この教室で自らの母文化に触れ、母語の力を少しでも伸ばすことによって、困難だった教科の理解が深まったり、自らのアイデンティティに自信を持つことができたり、また、ダブルリミテッドに陥る子どもが一人でも減り、親子のコミュニケーションの手助けになれば、こんなに嬉しいことはありません。

会員になって私たちの活動
を支えてください。

*正会員【年会費 5000 円】 個人
総会での議決権がある会員です。

*サポーター会員【年会費 1 口 1000 円】
個人 1 口以上・法人 1 口以上
経済的な支援を頂く賛助会員です。

※寄付も大歓迎です♪

郵便振替 0090-4-251298

こうべ子どもにこにこ会

(同封の振込用紙をご利用ください)

2012年度決算報告

単位:千円

繰越金	1,672	活動事業費	573
運営協力金	401	事務管理費	500
会費	133	人件費	2,030
保険	38	交通費	675
助成金	1,196	会場費	200
寄附金	9	研修費	143
その他(賞等)	1,000	活動準備金	425
収益	97		
収入合計	4,546	支出合計	4,546

☆ ご支援ありがとうございます !!

<正会員・サポーター会員>

長嶋昭親、佐野末夫、延原臣二、大岡栄美、乾美紀、武田丈、酒井滋子、有馬久美子、明石いずみ、小淵玲子、高木重幸、松田陽子、竹中夕紀、田中香織、匿名ご希望3名 (順不同・敬称略)

<絵本寄付>

乾美紀

<その他備品など>

こうべにこにこ会ボランティア有志

ご本人にご了承の上で記載させて頂いていますが、未確認の方につきましては、次回以降に掲載させていただきます。匿名ご希望の方は、事務局までご連絡頂きますようお願いいたします。

皆様のご支援により、にこにこ会の活動は成り立っています。今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

日本語・教科支援ボランティア募集

放課後教室のボランティアが大変不足しています！

それぞれの子どもの学習能力やニーズに対応し、主に日本語（国語）・数学（算数）・英語を1対1でサポートしています。原則として日本語でサポートを行い、勉強会などに参加しながら行いますので、経験等は不問です。やる気のある方歓迎です。

☆活動時間：木・土 16：00～18：00 ☆活動場所：本庄地域福祉センター

※ボランティア オリエンテーション（要予約）に参加してみませんか？

オリエンテーション担当 松下 までお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先 078-453-7440 Email：kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp



<編集後記>

大変お待たせいたしました。今年度、第1号です。スタッフもボランティアも人手不足の中、何とか発行にこぎつけることができました。ご協力くださった皆さま、本当にありがとうございました。

前回のにこにこ会ニュースの発行から今号まで、随分時間が空いてしまいました。でも、その間もにこにこ会は決して歩みを止めていたわけではありません。11年かけて築いてきた幹を守り育て、ひとつひとつ、新たな試みを進めてきました。これからも歩み続けます。一人でも多くの子どもたちの笑顔が増えるように。これからも、皆さまのご協力、よろしくお願いいたします。(M&S)

こうべ子どもにこにこ会

〒658-0022
神戸市東灘区深江南町4丁目12-20-201

電話 & FAX : 078(453)7440
メールアドレス：
kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp



ホームページ検索=こうべ子どもにこにこ会 (<http://nikoniko.gee.jp>)